



アプライアンスの設置

この章では、次の内容について説明します。

- [タスク 1：ラックに設置する](#) (1 ページ)
- [タスク 2：SFP ネットワーク接続モジュールを挿入する](#) (1 ページ)
- [タスク 3：接続して電源を投入する](#), on page 2
- [タスク 4：電源ステータスを確認する](#) (3 ページ)

タスク 1：ラックに設置する

アプライアンスをラックに設置する方法の詳細については、『Cisco UCS C220 M6S Server Installation and Service Guide』を参照してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/c220m6/install/c220m6.html

タスク 2：SFP ネットワーク接続モジュールを挿入する

CE1300 は、2 基の 10 Gb ファイバ SFP モジュールと 2 基の 1 Gb 銅線 SFP とともに出荷されます。



注意 互換性の問題を回避するために、SFP モジュールには次の制約事項が適用されます。

- このアプライアンスに付属している SFP のみを使用してください (M4 ベースの Expressway の SFP モジュールはこのアプライアンスでは再利用できません)。
- SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅線 SFP を挿入します。

SFP には次の要件も適用されます。

- これらのポートは、PCIe 01 カードの指定された SFP ポートにのみ挿入します。最も左にある SFP ポートは、Expressway ユーザインターフェイス上の LAN1 に対応しています。

■ タスク 3：接続して電源を投入する

- SFP は速度と二重の自動ネゴシエーションをサポートしますが、1つの速度のみをネゴシエーションによって、SFPの指定された速度と全二重にします。これは、指定された速度と全二重をサポートするスイッチポートにそれらを接続する必要があるということです。
 - ファイバ SFP用の 10 Gb 全二重
 - 銅線 SFP 用の 1 Gb 全二重
- 前の DMZ の導入のように 100 Mb のみをサポートしている環境に CE1300 を設置する場合は、1 Gb ~ 100 Mb への速度のネゴシエーションを処理するためのスイッチが必要です。

1 Gbps の NIC 逆多重化ポートを搭載した中規模アプライアンス

1 Gbps の NIC を使用する中規模システムをアップグレードすると、Expressway は自動的にアプライアンスを大規模システムに変換します。その結果、中規模システム用に設定された逆多重化ポートではなく、Cisco VCS Expressway は大規模システムのデフォルトの逆多重化ポート (36000 ~ 36011) で多重化 RTP/RTCP トラフィックをリッスンします。この場合、これらのポートはファイアウォールで開かれないため、Cisco VCS Expressway はコールをドロップします。X8.11.4 から、[システム (System)] > [管理設定 (Administration settings)] ページ ([展開構成 (Deployment Configuration)] リストから [中 (Medium)] を選択) を使用して、システムサイズを手動で [中 (Medium)] に戻すことができます。

タスク 3：接続して電源を投入する

-
- ステップ 1** 最初に電源ケーブルをアプライアンスに接続してから、接地されている AC 電源コンセントに接続します。電源の仕様については、『Cisco UCS C220 M6 SFF ラックサーバー仕様書』を参照してください。
- ステップ 2** CE1300 アプライアンスを初めて電源に接続する際は、電源ボタンを押す前に、5 分間スタンバイモードのままにしておきます。この間に、オンボードの CIMC がブートし、セルフテストを準備し、ハードウェアチェックを実行し、電源の特性評価テストの準備ができるようになります。十分な時間を取らないと、次のブートまで電源特性評価テストが延期されます。
- ステップ 3** アプライアンスの電源をオンにします（電源ボタンは、ユニットの前面の右側にあるコントロールパネルの上部にあります）。システムがセルフテストを実行し、アプライアンスが自動的に再起動します。再起動は予測される動作です。
- ステップ 4** 初期電源特性評価テストのため、最初のブートには 5 分程度かかります。システムのそれ以降のブートにかかる時間は約 2 分です。電源特性評価テストの実行時に「*Performing Platform Characterization ...*」というメッセージが表示されます。
- ステップ 5** 以降のブートアップ時に電源特性評価テストを実行するとブート時に遅延が発生するため、これを無効にすることが重要です。この問題を回避するためにこのテストを無効にすることが、特にクラスタ化された環境では重要です。詳細については、「付録 1：トラブルシューティング」を参照してください。
-

タスク 4: 電源ステータスを確認する

アプライアンスの前面にある電源ステータス LED を確認します。

- オフアプライアンスには AC 電力が供給されていません。
- オレンジアプライアンスはスタンバイ電源モードです。CIMC と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。
- 環境への配慮。アプライアンスは主電源モードです。すべてのサーバコンポーネントに電力が供給されています。

消費電力の監視

CIMC には、消費電力を追跡するために使用できる電力監視ユーティリティが備わっています。

■ タスク 4: 電源ステータスを確認する

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。